



インド・スリランカの協力隊員の教え子によるフレンドシップマッチ。右下は隊員と教え子たち（インド）。



日本ラグビーフットボール協会との協力隊連携派遣

2019RWCをアジアのワールドカップに！

2013年7月連携合意書署名

2019年の第9回ラグビーワールドカップ（RWC）の招致が2009年7月に決定し、日本でアジアにおいて初のRWCが開催されることになりました。ラグビー後発地域のアジアにおいて、地域の大会としての成功を目指す日本ラグビーフットボール協会（JRFU）と、スポーツ分野の拡充を目指すJICAが合意し、両者の連携によるラグビー隊員の派遣「JICA-JRFUスクラムプロジェクト」が開始されました。アジアを中心に、アフリカ諸国に対しても協力隊員が派遣され、ラグビーを通じた開発途上国における健全な青少年の育成が図られています。同時に、帰国後、隊員経験者がラグビー人材として活躍することも視野に入れており、コーチ、さらにRWC組織委員会やRWC参加国のリエゾンオフィサーとして活躍する人材も生んでいます。日本の協力により、国際統括団体のワールドラグビーが定める「ラグビーの5つの価値」（誠実・情熱・結束・規律・敬意）に加え、日本独特の「No Side」「One for All, All for One」といった精神を、開発途上国の青少年に伝えています。

～活動や目指す成果～

8か国に46名の隊員を派遣

2019年8月現在、スリランカ、ラオス、キルギス、ウズベキスタン、インド、インドネシア、セネガル、マダガスカルの8か国に、合計46名の隊員を派遣済または派遣中。

普及活動に加え、代表チームへの指導も実施

各国の小中高校、大学等で普及活動を展開すると同時に、ラオス、インドネシア、マダガスカル等一部の国では、代表チームへの指導も実施（7人制や女子を含む）。

大学との連携派遣も実施

流通経済大学（茨城県龍ヶ崎市）、同志社大学（京都府京田辺市）とはJICAとの間で連携覚書を締結し、それぞれインドネシア、インドに対して、学生あるいはOB・教員を長期（1年以上）と短期（約1か月）グループ型を組み合わせた派遣を実施。なお、流通経済大学からは女子部員4名を2019年8月に短期派遣。

JRFUによる現地ラグビークリニックの開催

スリランカではJRFUの協力の下、中村知春主将他日本女子7人制代表と隊員が連携したクリニックを実施。